

会議録

会議の名称	令和元年度 第3回 富士見市総合計画審議会
開催日時	令和元年11月6日 午後7時00分~午後9時00分
開催場所	富士見市役所 市長公室
出席者	岩田副会長、久米原委員、小林委員、寺田委員、中委員、仲田委員、三上委員、山本委員、横山委員、吉原委員、渡辺委員
欠席者	今井会長
傍聴者人数	なし
会議内容	
1 開会	政策企画課長
2 あいさつ	副会長
3 議事	
①総合計画について	
副会長：それでは次第に則り、議事に入る。まず初めに総合計画について、事務局から説明をお願いします。	
事務局：（＜資料 1、2＞について説明）（約20分間）	
副会長：順番に沿って話を進めるが、基本構想の全体的な話になっているので、多少論点を明確化したほうがよいということで、ポイントを絞って議論を進めていく。 まず、まちおこしする要素としてある「暮らし」「つながり」「生活環境」「成長」といった部分でそれぞれ検討させていただき、最後に「充実した毎日」という最終目標について議論を進めていただきたい。 まず、1つ目「実りある暮らし」について、具体的にどのような夢を持ったらよいか。ここでいう夢とは個々に対する夢なのか、漠然とした概略的な夢なのか、どう考えたらよいか、ご意見はあるだろうか。 今の子どもたちが10年後、20年後になって、「先祖たちは良いまちづくりを	

してくれた」と思ってくれることを考えた場合、皆さんはどう考えるか、お話を伺いたい。

委員：「実りある暮らし」というのはお金だけではなく、精神的なこともあるだろう。市のもともとの理念で言えば、総合計画が市から与えられるものではなく、市と市民が一緒に支え合って取り組んでいくものと考えれば、1人1人の暮らしの中で、貧富の差が激しくなっていることから、恵まれた状況にあるとは言えない人たちを支えられるようなシステムをまちの中で作っていくことが大切である。

そうすることで、実りある暮らしにつながっていくのではないかと。財産も守っていくという意味でも大切だが、ここで求められていることは精神的な部分なのかと思う。

どういうまちだったらみんなが住みたいと思うのかという原点に帰って考えていく、それが暮らしの充実につながっていく。

委員：骨子案に近い市がイメージするすばらしい都市の具体例などはあるか。

事務局：特に具体的な都市があるわけではなく、富士見市をすばらしい都市にしたいとの思いである。

委員：市民が増えていくことを望んでいる、という理解でよいか。

事務局：人口減少が市の未来を狭めていき、衰退していくことにつながっていくので、少なくとも20年後も10万市民はキープしていきたい考え方を持っている。

委員：20年後はまずAIが大きく活用されるだろう。また、人不足がある。20年後の富士見市も各都市も、まず無人化になっていくと思う。人口減少に関しては、2つの側面があり、1つは子どもがいないということである。子どもを呼ぶためには、教育がきちんとしており、子どもを安心して育てられる環境でないといけない。もう1つは気候変動で、大きな台風がどんどん来るようになった。富士見市は、きちんとした対応をしてくれたので、安心感がある。

ただし、床上浸水と床下浸水があったと聞く。自然災害等の対策がなされて安心できるまちづくりができれば、人は集まってくる。富士見市は生活者にとって安全だと思われること、それが「恵まれた生活環境」ということになる。それがないと、実りある暮らしはできない。スローガンとしてはそういったことも含めて、安心・安全、富士見市は子育てもしやすい、という視点が入れられればよい。

委員：安心して子育てができるところに人は集まる。人口を増やすには、当たり前のことができる幸せを実感できること、それが一番大事だ。

20年後、自動運転のバスが常に巡回しているようなまちづくりをしていただければ、高齢者も子どもも人は集まってくる。教育と高齢者に優しいまち、それが「実りある暮らし」であり「恵まれた生活環境」となる。生活環境のためには、防災に強い態勢でないといけない。

副会長：人は環境において生きているので、どうしても自然災害というのは避けられない。それにどう対応していけば安心・安全な生活ができるか。富士見市も考えなければならぬ。

委員：目に見えてつながりが出来るイベントが増えてくれば、子育て環境としても充実してくるのではないか。核家族が多くて、ほかの家庭とのつながりが薄くなっていると思うので、そういった試みをもう少しアナウンスしていけばより効果的ではないか。また、今月末にある「中学生の主張」だと、毎年中学校のブラスバンド部が演奏会をして、また、定期的にふるさと祭りでも巡回しているが、そういった試みに関するアナウンスが増えれば、子育ての環境として魅力が高まるのではないか。

副会長：住みたいというモチベーションが持てるようなものをつくっていかないといけない。

委員：富士見市とふじみ野市が同じようなコンセプトで、「子育てするなら」というのは紛らわしい。より強力なコンセプトを持ったまちの合言葉を出すことも必要だと

感じている。

委員：先ほど、人口を増やしたいという話だったが、人口が増えて行政サービスが増えることによって支出が増える。当然収入も増えるが、そのバランスを考えないで単純に増えたほうがよいと考えているのか。

事務局：人口が増えればそれに掛かる経費も当然増える。今、市役所内でも話題になっているのが、公共施設マネジメントである。市内に128の公共施設があり、その約60%以上が学校や公民館などの教育施設である。これを維持していくことになると、それなりの住民の規模が必要になってくる。これから人口が減っていくと想定して、掛かる経費の平準化を図るとなると、今の面積の22%を削減しなければ将来富士見市は持たないという推計も出ている。公共施設を削減していくのは大変で、皆さんと一緒に考えていくようになるという周知はしているところだ。そういう面からいっても、10万規模の人口は必要だと考えている。

委員：このままのペースだと10万人は切ってしまうと、収入もダウンするから危機感を持っていると思うが、反対に人口を増やして14万、15万人を目指すということもあり得るのか。

事務局：富士見市の面積から考えると半分が市街化区域で、もう半分が市街化調整区域である。まだ市街化区域のほうにも生産緑地関係の畑や空地もあるが、そういうところでの開発等を踏まえても、今の人口減少の傾向からすると、14万、15万はなかなか難しいと感じている。

委員：減っていくものを止めようという考えで進めていくのか、反対に15万を目指す、だから減らないのだという発想になったときに、15万を目指すにはそれなりの施策ややり方が必要で、維持するためのやり方もある。総合計画の中にピンポイントで富士見市の売り、標語になるような、「子育て不安ゼロ」とか、ほかのまちから羨ましがられるような富士見市だけの切れ味の鋭いワードやサービスを打ち出

していくのがよいと思う。

事務局：おっしゃるとおりだ。これまでも、「子育てするなら富士見市」というのは、キーワードとして、子どもの施策については、さまざまな取組をしてきた。例えば子どもの医療費無料化について、当初は小学生まで対象だったが、中学生まで拡大したり、保育施設の新設・増改築など充実を図ってきた。また、放課後児童クラブについても、待機児童ゼロを継続している。さらに、プログラミング等に特化したもの、また、子どもたちを教える教師の育成にも力を入れ、良い教育を施すといったことにも取り組んでいる。子育てにはこれからも力を入れていき、必要なところに投資していく。

委員：富士見市は高齢者が増えている感じがする。

事務局：15歳から64歳までの生産年齢人口は人口減少に伴って減っていく。しかし、今は64歳といってもしっかり働ける元気な方も多い。元気な高齢者が活躍する場を提供することも大事である。それから、小さな子どもを子育てする環境も整えなければならない。そのように、バランスがとても大切ということは、常日頃、強調したいキーワードとしている。

委員：3人に1人が高齢者といわれているが、富士見市もそれに近いのか。

事務局：富士見市の高齢化率は、25%前後である。

委員：それは増える傾向にあるのか。

事務局：そうである。

委員：高齢者をサポートする世代が必要なのではないか。また、若い世代が子育てしやすい環境も必要だ。子どもを産むとお金がかかる、だからなかなか産むことができ

ないというネガティブな傾向があるので、「子どもを産んでも大丈夫」「子どもを産んでもお金はかからない」というイメージだけでも必要ではないか。

副会長：富士見市の人口のキャパシティも頭に入れておく必要がある。増えることによって、自然破壊も進む。富士見市も自然が破壊されると売りがなくなるので、ある程度の人口の目安も考えないといけない。

次は「充たされたつながり」について御意見をいただきたい。「充たされたつながり」というのは、世代、国籍、地域の多様性の話で、家族や仲間とともに、安心と安らぎのもとで過ごすことができるつながり」それから「風通しのよいまちの風土が創る新たなつながり」とある。

委員：話が戻るが、「実りある暮らし」、それは充実した毎日を目指すということで、それに加えて「充たされたつながり」「恵まれた生活環境」といったところまで、ここまでうまくまとめられていると思う。夢を語るとしたらこういうものが中心になるということについては、皆さんの意見は一致すると思う。ただ、違和感があるのは、最後のところの、これを生み出すための「成長の継続」である。ここの部分は、夢を実現するためにある程度具体的に書く必要が出てくるのではないか。そうすると、どのようにして富士見市が経済成長を維持していくのかというのは、市だけを考えたときは難しい問題である。また、成長と聞くと、マイナスのイメージを持っている人もいて、特に経済成長という言葉には違和感を持つ人もいるので、そこを調整しないとなかなか骨子案のとおりにはいかないと思う。

副会長：成長がすべてではない。鎌倉は家を増やさないというスタイルを守ってきて、それも人気のある理由の1つである。つまり環境風土を壊さず、人口を増やさないで、自分の財産を売りにして、お客を呼び込んで財源をつくっていくことを続けているらしい。鎌倉という風土を大切にするという考えが今も生きているから、今の環境も続いているのだと思う。この「充たされた」ということは、住むことに対して心が満たされているということなのか。

事務局：「充たされたつながり」というのはコミュニティや地域といった視点で書いている。家族との親しいつながりや学校や地域における身近な人とのつながりなどによる安心感のある関係性がベースになって、心が満たされる、安心して富士見市に住むことができるということを念頭に置いている。

副会長：そういう意味では、コミュニティ、公民館等の施設の話で、場所が狭くて困るという話を聞く。そういうことにご意見はあるか。

委員：市民大学は多くの市民の方に来ていただいている。鶴瀬公民館とみずほ台コミセンを使わせていただいております、鶴瀬西交流センターも時々使わせていただいております。応募者や生徒が多く、やりがいがある。反対に担当者のほうが少なくなって苦勞している。

副会長：どの団体にとっても活動する場所が少なくて困っている。時間がなかなかとれないという要望がある。それが人とのつながりに大きく関係するのではないかと思う。市民活動で、知らない人同士で何かをする、それが人とのつながりであって、そんな活動が活発になってそれで市民力が強まるのではないかという考え方がある。そのあたりのことはあまり出てこないのか。

委員：びん沼荘で行っているコミュニティ大学は非常に活発で、全市対象なので、今まで面識のなかった方とも一緒にいるため、コミュニティが1つになって充実した時間を過ごせて良い取組だと思う。こういったことを今後も継続していただければよいと思う。もう1つ、町会活動ももっと盛んにしていただければよいと思う。防災訓練やお祭り等を各町会でしている。防災訓練は多くて100人以上来ていただいているので、顔なじみにもなり、この安心と安らぎのつながりにもなっていくのかと思う。

副会長：箱モノを作ればよいというわけではないが、そういう活動の場が欲しい。このあたりについていかがか。

委員：高齢化が進んでいるというのも問題だが、人口は少しずつ増えている。増えているにしても保護者が共働きで放課後児童クラブに預けていて、その後、保護者が迎えに来るまで居場所がないということで、子ども食堂に行っている子どももいる。充たされたつながりという言葉があるが、夫婦で働いていて金銭的には子どもがご飯を食べられないという環境ではない気がする。そういう子どもたちが来ているという話を聞いて、疑問を持っている。

高齢者の買い物難民の話で、それに対して行政は取組を始めたと聞いた。いろいろなものが立ち上がるが、立ち上げただけでうまく運営がなされていない。同じ内容のものが多く立ち上がっているので、同じ内容のものが2つあるなら1つにしたほうがよいのではないか。

副会長：富士見市も高齢者施設が多くなってきたが、高齢者施設の方にも生きがいを持ってもらおうということで、お仕事を依頼しているところがあるらしい。

委員：入所者が内職をしていくらか賃金をもらっている話を聞いたことがある。

副会長：それが、まさに高齢者にやさしいまちと言えるのではないか。

委員：入所している方の中で元気な人に限った話だ。そういうことができない人のほうが多い。

副会長：いろいろな施策が多く出ても、成功するケースはなかなかない。

次に「恵まれた生活環境」について、「自然と都市が共存し、都心では叶わない富士見ならではの生活環境」とあるが、いかがか。

委員：生活環境ということで、災害の話があったが、この間の台風19号について、ガーデンビーチの手前、健康増進センターの裏あたり、水谷東は冠水したところがあった。砂川堀はいつも冠水していて、富士見市も何らかの策を講じているとは思

が、その住民にとっては「またか」と思うだろうし、住みにくい環境ではないだろうか。水谷東も、30年ぶりくらいのひどい冠水だったらしい。30年ぶりということは昔も冠水はあったということなので、同じことが繰り返されると、住民は富士見市を嫌だと思ってしまうのではないか。次に備えた改善策があればよい。それから、安全についてだが、子どもの通学路等に暗い道が結構あり、防犯カメラを多く設置しているなどのアピールをすれば、自分の子どもを富士見市に通わせようという気になると思う。

副会長：防犯カメラはだんだん増えてきている。防犯カメラを多く設置すれば犯罪は減ることは間違いない。財政的な部分をどう解決していくか考えなければならない。

農業地の保全についてはどういう考えか。「都心では叶わない富士見ならではの生活環境」というのも農業の保全が重要なのではないか。

委員：農業の保全については、後継者不足の問題があると思う。

副会長：人口が増えると、土地を潰さないといけなくなる。そうなると、ふるさとがなくなることにつながるが、それに対して見通しはあるのか。クラウドファンディングを取り入れて、将来的に市民と共に農業をやっていくという考え方はないだろうか。

委員：現場ではそういう話はまだない。若手の農業の跡取りの組織に所属しているが、同世代でクラウドファンディングといった話は出ていない。みんな自分のところを守るのに精いっぱいだ。あと、こういった理想のイメージをつくるにあたって、ずっと富士見市に住んでいるからこそかえて良さが見えてこない部分があるので、転入してくる方に、なぜ富士見市に住みたいと思ったかについて聞くと、成長していくヒントが見えてくるのではないか。

副会長：私は、富士見市は良いところだと思う。田舎がすぐそばにあるのは理想的。都

会も近い。そのあたりの調和はなかなか難しいが、次に、「成長の継続」の部分について、将来に向けて成長していくためには、これから富士見市に何が必要なのかご意見をいただきたい。

委員：商工会の青年部の観点から言うと、地域のお祭りなどのために日々活動しているが、成長するには富士見市を魅力あるまちにしていけないといけない。その一助となるかわからないが、昨年初めて文化の杜公園で花火を上げた。大変反響をいただいたので、何とか継続事業とするため奮闘し、今年も花火を上げられることになった。それを見て子どもたちも喜んでくれるので、富士見市の魅力アップの助けになっていけばよいと思う。

副会長：富士見市には民俗芸能があるらしいが、そういったものは利用していないのか。

委員：商工会青年部ではそういったものは利用していない。

副会長：富士見市にも良いお酒があるみたいだが。

委員：商工会でいろいろ魅力あるものを作っている。

副会長：10年後、20年後、商工会青年部はどうなっているだろうか。

委員：若手がどんどん減っていつている。

副会長：まちのイメージとしては、「まちの経済が潤い、その潤いがさらなる成長を生みだす、発展力」「まちへの愛着や誇りが増し、周囲に羨ましがられるようなまちの魅力」「地の利や歴史、新たに加わる力も活かし、調和のとれた“まち”が継続する持続力」と書かれている。商売を成長させるには何か政策をお願いしないといけないということになっていると思う。これについて御意見を伺いたい。

委員：成長と言うと、上だけを見て足下が疎かになる感じがする。持続力、維持をしていくことが一番大事だと思う。空家活用の問題も出ているし、農家の話でも維持するだけで大変である。そこが維持できなくなった場合に、どういった形で市として対応するのか。まちとして今ある資源を活用して次につなげていくことに力を入れてもよいのではないかと。力を蓄えていくほうがよいと思う。

副会長：持続可能な成長という言葉もあるが、今あるものをより発展させていくように努力しようという考え方が主体となる話かと理解している。行政に頼るということもあるが、市民の力からの発展性もあるのではないかと。1つ1つ具体的な例を挙げながら、市民と行政がどう対応していくかというのが、20年後を目指す新しい考え方だと思う。

最後に、暮らし・つながり・生活環境について推進していくことで、楽しい・幸せ・居心地が良いなど、充実した毎日につながることにしている。20年先を見て子どもに伝えられるものがいくつあるのかといつも思っている。子どもが増えることは良いことだと思うが、生活が苦しい人も増えている。緑地保全のことも心配だ。そこも含めてこれからも考えていただければと思う。

次のテーマに移る。理想の“まち”の合言葉の検討について、事務局から説明をお願いしたい。

②理想の“まち”の合言葉の検討

事務局：（〈資料4〉について説明）

（自由討議15分）

事務局：限られた時間の検討なので、合言葉にならなくても、こういった意見があったということで1班、2班共にご発表いただき、事務局として参考にさせていただきたいと思う。1班からお願いしたい。

委員：1つ目が「輝く未来が広がるまち」、2つ目が「挨拶と笑顔が溢れる理想のまち」。

事務局：そのコンセプトや考え方の根拠等があればうかがいたい。

委員：言葉として、挨拶、笑顔、輝く等の明るい言葉を拾って、集めた。

事務局：それでは、2班お願いします。

委員：「ふるさとじまんの未来のまち」。㊦まんのじは児童の児、笑顔のあふれる子どもが多いというかそんな当て字で書いたらどうか。㊧るさとみみたいな自然があって、子どもも笑顔で㊨らいがあるというイメージ。そんなキャッチフレーズがよいと思った。あと、「不死身」も出たが、それはいかがなものかと。難しい。

事務局：来年の議会の調整まで時間があるので、いろいろな意見をいただきながら、この審議会でも検討をお願いすることもあると思う。テンポよく心に伝わりやすいものが出来ればよいと思っている。そのことを念頭に置いて、今後の検討も進めていただければと思う。

副会長：委員のお子さんが作った「挨拶は笑顔をつくる魔法の言葉」という標語が賞をもらったらしいが、これから未来をつくる子どもたちにも合言葉を作ってもらうのもよい。我々大人が作るよりも、子どもたちの新鮮な言葉を使ってこれからの未来をつくっていくのもよい。また、何か良いものがあればご提案いただきたい。それでは、最後の「その他」について、事務局からご説明をお願いしたい。

(3) その他

事務局：今後の説明：ほかにご意見があれば11月11日（月）までにメールや電話、手紙等で受け付けている。次回の第4回審議会は11月21日（木）に開催予定

4 閉会